



第36回 びさいのキャリア教育

「幼稚園って遊んでるだけでしょ。」いえ、違います。「幼児教育って大切。早くからたくさんのお金を教えてもらった方がいい。」いえ、これは、もっと違います。幼児教育とは、社会の縮図を遊びとして経験するということです。

お店屋さんごっこ遊びは、子どもたちがたのんでいる活動です。買い物って楽しいんでしょね。ストレス解消は衝動買いという人もいることでしょう。

でも、「買い物」「つまり」「消費」を手放して楽しむわけにはいきません。私たちは今や「子ども消費者」になっており、消費の比重があまりに大きい社会が、子どもたちにおよぼす悪影響は大きいからです。

消費者は「お客様」で、サービスを求める人です。サービスしてもらう人なので、サービスがよくなるほど自分は動かずに周りが動いてくれる。自分の思い通りに近くなるので、えらいぞんな立場に置かれます。「お客様は神様です」なんていう考えのある困果です。

なので、びさいでは、「保護者さんには保育サービスを受ける《お客様》でも《消費者》でもない。園児、教職員とともに園を《作る人》だ」と言い続けています。なので、びさいの保護者さんに、自分は参加せずに文句ばかり言う消費者的態度の人はいません。

で、「ごっこ遊びではおもちゃのお金を使いますが、そのお金はただでは渡しません。おうちのお手伝いをしたり、園の仕事をしたりするともうええです。お金と仕事は結びついてることを知ってもらったためです。

おみせのセッティングをしたり、お店屋さんになったりした年長児は、終わった後に言いました。「忙しかった」「楽しいけど大変」「すこい疲れた」「うまくいかないこともあった」と。それが働くってことだよ。お家の人は大変な思いをしてお金を稼いでるんだよ。と、担任は言いました。

売れない切なさ・しらなを経験する。数がわかる人は、料金設定があいまいなのに、ちゃんとおつりを出さないと気が済まなかったりする。ある食



物屋さんでは、その前の週末に園でいわしをさばいたのと同じ手つきで、おもちゃの魚をさばくという、再現もありました。

異年齢でペアになって買い物をするのですが、小さい子がちゃんと買いたい物ができるように年長児が、自分の買いたい気持ちをおさえて上手にエスコートする姿が多々見られます。そうかと思うと相手そっちのけで自分のものだけ買いまわって抱えきれないほどの商品を身に付けてる子もいる。はからずも、いろんなことが表現されてしまっている。

誰も見てないすきごっこそりカバンに入れちゃう子。それをみつかってそれはどつかない」と注意される。その時に、おどおどしながら悪いことする経験をし、しかも見つかってしまった恥ずかしさ・罪悪感をも経験する。この経験が、みつかるまでエスカレートする「万引き」を抑制する力になるかもしれない。

「びさいお魚探検隊」は社会の原型とそれを包む海を経験する。市場を見学しますが、売られている魚ごっこから来るか、と問います。海から。そして漁師さんによって水揚げされる。

そのように、お店屋さんごっこで売られている商品はどこから来るか。子どもたちが作りました。彼らは生産者の立場を経験していただきます。

年少組の担任が、お金はどこから来るかと問いました。おかねは親の労働から、と話してみただけでわからない子もいる。家の人が仕事してお金をもらうように、みんなも買い物ごっこのお金をお仕事してもらおうってごっこ。お店に並び商品を作ってもらう、子どもたちは生産者になってお金を手に入れる。賃金が発生するとジャンジャン作り出す子があらわれる。逆に「作りたい」と言ったら、ちゃあお金がないから買いたい物できんよと言われて、しびしび「お金のために仕事をやる」子もあつ。

また「社会の縮図」。ごっこ活動の連なりは「キャリア教育」と呼ばれていることでもあります。生産と消費、労働とお金が一層強く結びついて「社会の縮図」度が高くなった、今年のお店屋さんごっこでした。



おみせやさんごっこ遊び
 年少者へのいたわりがあふれでる。
 いつこんな心を身につけたんだろう。



ホンモノの手つき



呼び込みの音が
 聞こえてきそう



(今回の園長通信と関連するバックナンバーは、第 1, 2, 5, 9, 10, 16 回です)